





令和3年 **3**月の**安らぎ**通信

目次

- (1) 巨大地震の兆候つかめ 感じない「スロー地震」に注目
- (2) 55自治体 侵水域に庁舎 南海トラフで津波想定 139市町村
- (3) 津波予測 パソコンでも 「富岳」とAI活用
- (4) ローリングストック 続くコツ



(1) 巨大地震の兆候つかめ

感じない「スロー地震」に注目

*体に感じない「スロー地震」の研究に注目が集まっています。

約20年前に日本で初めて観測され、東日本大震災の直前にも起きていました。

*スロー地震の一種「深部低周波微動」：地下30km以上のプレート境界で1秒間に数回程度の周期で揺れる小さな震動。

南海トラフ地震の想定震源域のすぐ近くで頻繁に起きていることが明らかに。

*東日本大震災の約1か月前から2度にわたり、震災の震源に向かっていくように微小な地震活動が起きていました。

スロー地震が震源方向に伝わり、力が集中した結果、断層がずれ動くのを促した可能性があります。

*南海トラフ地震の想定震源域周辺では、「深部低周波微動」のほか、半年から数年かけてプレートがずれ動く「長期的スロースリップイベント」、想定震源域よりも浅い領域で数十秒かけて1回振動する「浅部超低周波地震」など、様々なスロー地震が起きていることが明らかになってきました。

(2021年2月1日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 55 自治体 侵水域に庁舎

南海トラフで津波想定 139 市町村

進まぬ高台移転 用地・利便性が壁

*南海トラフ地震の津波で被害が予想される全国 14 都県 139 自治体のうち、4 割近い 55 自治体の主要庁舎が浸水区域に立地。

*高台などへの移転を計画または検討しているのは 11 自治体。

*住民の利便性の問題や用地確保の難しさから移転を断念する自治体も。

★南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域

*南海トラフ地震が発生した際に著しい津波被害が予想される地域。

*①30 cm以上の浸水が地震発生から 30 分以内に生じる想定

②同強化地域に挟まれた沿岸自治体

③自治体が危険と判断

の 3 つの基準のいずれかに該当する場合に指定されます。

(2021 年 2 月 8 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(3) 津波予測 パソコンでも 「富岳」と AI 活用

数秒で高精度算出

*東北大学と東京大学、富士通研究所は、スーパーコンピューター「富岳」を使い津波の浸水を精度よく予測する技術を開発。

*事前に富岳で人工知能 (A I) による予測モデルを作っておき、地震発生時には計測した沖合の波の高さをもとに一般のパソコンでも数秒以内に高精度な予測ができます。

*2 年後をめどに地方自治体や企業などへの導入を目指します。

(2021 年 2 月 17 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) ローリングストック 続くコツ

期限や数「見える化」で管理

*ローリングストック：レトルトなど日常的に食べている食品を多めにそろえ、食べて減った分だけ買い足していく備蓄法。災害時にはそのストックが非常食になります。

*ローリングストックに入れる食品は、普段食べているもので、さらに災害時に食べたいと思うものを選びましょう。

食欲がそそられる好きなものをストックしましょう。

*1か月～長くても半年で消費し、回転させます。

*食品の賞味期限が一目でわかるようにします。

*「賞味期限の見える化」として、期限が近いもの同士を大まかにまとめて収納。

*一般的に水は1人につき1日3リットル必要と言われています。

☆賞味期限を「見える化」

ストック品には賞味期限を記入。

ペンなどは収納場所の近くに常備

☆ストック用のスペースを別に確保

中身を撮影し貼っておくと、使い忘れを防げる

*災害時を想定して1週間分の献立を考え、家族全員で何がどのくらい必要かを計算。

*1週間ストック品で過ごし、在庫を確認。

カセットコンロで調理すれば、災害時の練習にも。

(2021年2月27日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

